

論文番号 63

担 当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題 名 (原題/訳)

Low-to-moderate alcohol consumption and breast cancer risk by age 50 years among women in Germany

ドイツ人女性における 50 歳までの少量から中等度アルコール消費量と乳がんリスク

執筆者

S Kropp, H Becher, A Nieters, J Chang-Claude

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2001; 154:624-34.

キーワード

飲酒、乳房新生物、症例対照研究、閉経前、ワイン

要 旨

アルコール消費量が多いと乳がん発症リスクが増すことは知られているが、低から中等度の飲酒量では乳がん発症にどのような影響があるかはよく知られていない。そこで、50 歳までのドイツ婦人を対象とした症例対照研究により、低から中等度飲酒量と乳がん発症危険性について検討した。症例は 706 例、対照は年齢をマッチさせた住民 1,381 例である。調査は 1992-95 年に実施された。多変量ロジスティック回帰分析による、乳がんに対する調整オッズ比は、エタノール 1-5 g/日で 0.54、6-11 g/日で 0.67、12-18 g/日で 0.73、19-30 g/日で 1.10、31 g/日以上で 1.94 であった。19 g/日以上 の多量飲酒者でのリスクは、教育程度によって異なり、教育程度が高いほどリスクは低下した。すなわち、教育程度の低い群の調整オッズ比は 3.7、中等度は 1.6、高い群は 0.7 であった。

この結果より、少ないアルコール消費量では、閉経前の女性では乳がん発症リスクはないと考えられた。